

平成 29 年度（第 61 回）

岩手県教育研究発表会発表資料

社会／地理歴史・公民分科会

社会科における「創発の学び」の充実

～社会的な見方・考え方を働かせる授業展開の工夫～

平成 30 年 2 月 9 日
岩手大学教育学部
岩手大学教育学部附属小学校
橋 場 美 和

社会科における「創発の学び」の充実

～社会的な見方・考え方を働かせる授業展開の工夫～

1 岩手大学教育学部附属小学校の研究について

(1) 「創発の学び」とは

個々の考えを合わせながら、集団で新しい価値を創り出そうとする営み。

(2) 社会科における「創発の学び」とは

- ・社会科での「新しい価値」を、「子ども自らは見えていなかった事象や、人々が直面している様々な事象について、今まで持ち得ていなかった社会的な見方や考え方を獲得していくこと」ととらえた。
- ・社会科における「創発の学び」を、「主体的な問題解決の過程において、個々の情報や考えを持ち寄り、集団でかかわり合いながら社会的事象の理解や意味を見い出していくこと。」ととらえた。

(3) 創発場面のある社会科の学びのために（手立て）

社会科では、創発の学びに迫り、「主体性」「創造性」「協調性」を育む手立てとして、次の3点を設定した。

- ① 集団で解決したくなる問いの設定 (主体性・創造性・協調性)
- ② 現代社会や人の生き方に迫る教材の開発と資料・発問の工夫 (主体性・創造性)
- ③ 主体的な問題解決を促す単元構成の工夫。 (主体性)

2 社会科で育てたい資質・能力

(1) 次期指導要領 社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次の通り育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に着けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて社会へのかかわり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通じて、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。

(2) 社会的な見方・考え方のとらえ

「社会的な見方・考え方」・・・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法(考え方)」のこと。また、「社会的な見方・考え方を働かせ」ることは、視点や方法(考え方)を用いて、調べ、考え、表現し

て、理解したり学んだことを社会生活に生かそうとしたりすることなどである。これらの学びは、思考力・判断力を育成することはもとより、知識と知識を関連付けて深く理解すること、主体的に学習する態度にも作用することが考えられるため、資質・能力全体にかかわるものである。

小学校社会科における「社会的事象の見方・考え方」

・「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して（視点）、社会的事象をとらえ、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

「主体的な学び」

- ① 興味や関心を持っていること。
- ② 見通しを持っていること。
- ③ 粘り強く取り組んでいること。
- ④ 自分の学びの振り返りができること。

「対話的な学び」

- ① 事実や様子の把握
- ② 予想の磨きあい
- ③ 見通しの共有
- ④ 協力した調査
- ⑤ 討論・話し合い
- ⑥ 共同作業、協力した学習成果物の作成

事実をもとにして比較・関連付けたり総合したりしながら、社会的事象の特色や意味を考察する方向へ向かう、立場や根拠、理由付けを明確にしながら自分の考えを説明する方向へ向かう「対話的学び」を目指す。

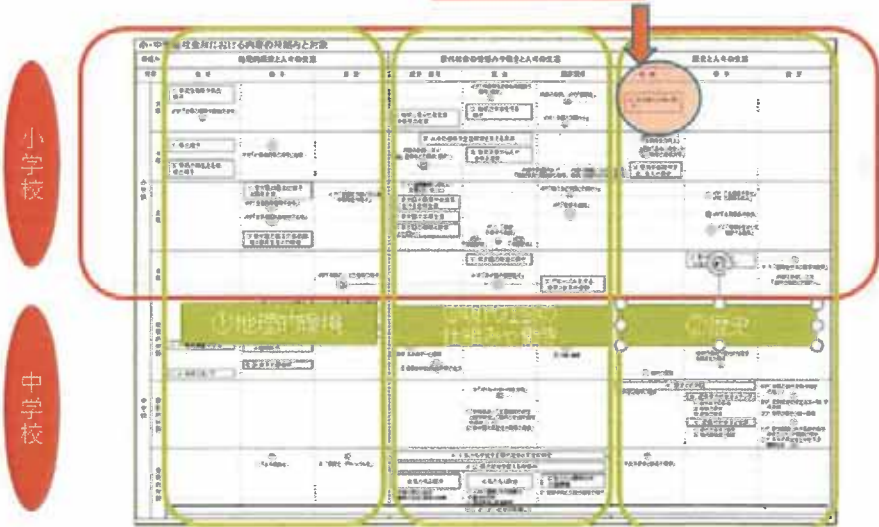
※子供同士のみならず事象や社会にかかわる人々との対話

※社会科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、これまでよりも物事を大きくとらえていく概念の形成こそが、社会科における深い学びだと考える。

3 実践「市の移り変わり」（3年 新単元）

（1）概要（変更部分を中心に）

・3年生最終単元「市の移り変わり」として位置し、従来の「昔の道具」を一部含め、新たに各市町村で単元開発が求められる単元。3年生で唯一「歴史と人々の生活」を対象としている。



（新学習指導要領小学校社会科解説編に加筆）

・「3・4年社会」から「3年社会」へ。（3年生は市、4年生は県）市の様子で学んだことを生かして、

市の様子の移り変わりもとらえる構成。(単元名は指導要領を参考に作成)

(1) 身近な地域や市の様子

(2) 地域にみられる生産や販売の仕事(例 農家の仕事、スーパーマーケットで働く人々)

(3) 地域の安全を守る働き(警察・消防)

(4) 市の様子の移り変わり

・知識…市や人々の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解する。

① 交通網の整備 ② 公共施設の建設 ③ 土地利用や人口の変化 ④ 道具の改良

技能…聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

① 博物館や資料館など関係者や地域の人への聞き取り調査で必要な情報を集める。

② 関係機関が作成した資料などを見比べながら、移り変わりなどの情報を読み取る。

③ 調べたことを年表などにまとめる。

・思・判・表…

・交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子をとらえ、それらの変化を考え、表現すること。

・都市化や過疎化、少子高齢化など市全体の変化の傾向を考え、文章に記述したり、年表にまとめたことをもとに話し合ったりすること。

※問いを設ける

※移り変わり(=過去→過去→現在) 大きなターニングポイントを取り上げる。

※元号を用いた言い表し方、租税の役割、人口と市の発展に関心をもち考えたり討論したりすることなどが追加。

(2) 主体性をはぐくむ単元構成(しかけ)

・7時間扱いで構成。

(実施当時、配当時間が不明だった。「昔の道具と人々の暮らし」と関連させたため。)

・「移り変わり」に問題意識が向かう単元の導入→地図の並べ替えクイズ)



①と③の地図には、ここに附属小学校があるよ。

盛岡市中心を流れる3つの川(北上川・中津川・雫石川)と城跡がヒントとなる。子供たちが個人で持っている盛岡市の地図と似ている範囲を提示。



④には、お城があるね。きっと殿様が住んでいたところだよ。

- ・第1時の資料「市役所の方からの話」に、「市の未来について提案してほしい。」というメッセージを入れ、単元のゴール「市の将来について議論する」に向かう見通しや相手意識を持たせるようにする。
- ・市の移り変わりの観点（交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具）を、3年生初めの単元「市の様子」の観点（土地の様子、人の様子、建物の様子、交通の様子、その他）と関連させて見通しを持たせる。
- ・時間的な経過をとらえ元号の扱いになれるため、プリントや副読本資料を活用し、調べたことを年表にまとめて表現する学習活動を取り入れる。



児童のノートより

市の移り変わりをとらえる資料として、市の副読本巻末にある年表を利用した。調べたことをプリントに記入する場合、黒板の時系列とそろえるために、年表は縦書きにした。

(3) 社会的事象の「見方・考え方」を働かせる資料提示と発問

位置や空間的な広がり

- ・盛岡市の地図の比較から、
 - T 「どの地図にも共通していることには、どんなことがあるでしょう。」
 - C 「どれも北が上になっているところです。」
 - C 「地図記号はないけど、場所の名前が書いてある。」
 - T 「絵地図と地図を比べた時のことを使っているね、なるほど。地図に書いてある中身のことで、同じこととはありますか。」
 - C 「川の流れるは違うけど、3つの川があるところです。」
 - C 「周りは山みたいになっているところです。」
 - C 「同じところに、お城とか、城跡公園があります。」



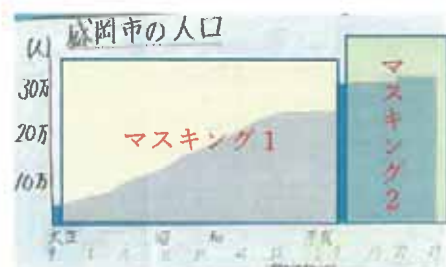
- T 「では、変わっているところはどんなところですか。」
- C 「附属小学校の場所が変わっています。」
- C 「まち？人が住んでいそうなところが広がっています。」
- C 「町の名前とか、〇丁目とか増えている。」・・・

はじめは既習の「絵地図と地図の共通点」に着目していた。地図の比較から、川や山などの地形は変わらないことをとらえさせたかったので、視点を絞る発問を加えた。

同じ場所の地図を並べて、じっくり見る活動をすることで、地理的に変わらないこと人の営みに関して変化してきたことをとらえ考えることができた。

時期や時間の経過

- ・人口の変化のグラフから
 - T 「人口はどのように移り変わっていると思いますか。」
 - 「指でどんなふうに変わるかやってみて」
 - T (マスキング1をじわじわと外す)
 - T 「どんなことがわかりますか。」…
 - T 「あれ？今の盛岡市の人口は…」
 - C 「29万5千…あれ？そこまでいってない。」



T「続きがあります。(マスキング2を下から外す)」

C「えー、階段になってる。」

T「どういうこと？」

C「急に増える。人口が2回、急に増える。なんでだ？」

予想と比べて資料をどのように読み取るのか見通しをもたせてから資料を提示した。

マスキングを2つすることにより、増加傾向にあったことと、(合併により)急に2回増加したことに着目できるようにし、問題意識を高めさせることができた。

事象や人々の相互関係

- 盛岡市の目指すまちづくりについて知る
(子どもたちは市の移り変わりを学んだあと、どんな市になってほしいか、簡単にノートに書いている。)

T「これは盛岡市が将来、こんなまちにしたいという計画を書いたものです。みんなが考えたことの中に盛岡市が考えていることと似ているものはありますか。」

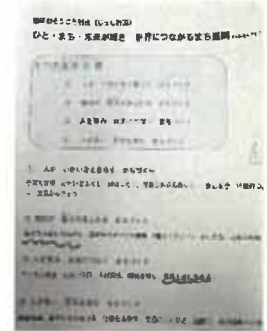
C「公共施設のことが一緒です。」

C「自然を大切にすることが同じです。」

C「交通の便利さと、人口が増えればいいことがにています。」



盛岡市総合計画



総合計画実施計画を子供用書き換えたもの

盛岡市の移り変わりを各観点でとらえてきた子供たちが、市の総合計画(公的機関が発行している資料)と自分の考えを比較することで、単元の学びを生かした提案につなげられるようにした。各自治体では総合計画を策定しており、子供向けに書き直すことで、子どもたちも自治体がどのようなビジョンを持っているのかとらえることができる。

(4) 討論・提案

- 個人の「将来の盛岡市」への提案を付箋に書き分類する。



- 盛岡市の総合計画(1~4)の中で、特に自分の考えが当てはまる人同士あつまってグループを作る。
- 将来の盛岡市への提案内容と理由を交流し合い、ホワイトボードにまとめる。
- 全体で発表し合い、大切だと思うことについて考えあう。
- 盛岡市役所の方から、子どもたちの提案を聞いて考えたことを教えていただく。

子どもたちの提案

- 住みやすく、安全で、盛岡市ならではのイベントで人口をふやし、楽しい暮らしになってほしい。
- 楽しく(かんきょうがよく)安全にくらせるまちになってほしい。(人口→子ども→未来)
- 人口が多く、しょうがいしゃの人も安心して楽しくくらせるまちになってほしい。
- 交通がべんりでじこが少なく、生活がべんりで住みやすいまち。長生きができるまち。
- 古くから親しまれている行事や建物をうけついでいき、新しいものも作っていく。
- 平和でれきしをのこしつつ(古い建物ものをのこして)べんりな盛岡市になってほしい。
- 自然をのこして人口を増やしたいです。
- わか者をつめる(仕事をふやす)お年よりがせつめいする。祭りなどでかんこう客をよび、盛岡市のみ力をせんでんしていった方がいい。

市役所の人（阿部さん）の話（授業参観日）

- ・みんなの考えていることは、市役所の考えていることと似ている。勉強したことを生かしてここまで考えられるって素晴らしい。
- ・新しいものも取り入れ便利にしていくことも、昔のものを残していくのも大切。でも、昔のものは、そのまま残すと危ないという面もある。
- ・安心安全ということでは、道の電気を増やして明るくすることをしている。
- ・人口を増やすには、いるか、来てもらうか、産むかしかない。子供が多いと町に元気がでる。人口を増やすために市役所の人だけが頑張るのではなく、みんなの知り合いや親せきに、盛岡のいいところを伝えてくれるとうれしい。
- ・盛岡市のことについて、みんなが考え続けてくれることが大切だと思う。



子どもたちの振り返り

- ・今日話してみて、「すみやすい」をわかりやすくするために、「生活がべんりになる」をつけたしました。阿部さんの話を聞いて、人口を増やすことは市役所の人だけではできないと思いました。阿部さんが言っていた、「みんながやれること」を、少しずつ考えていきたいです。
- ・今日話し合ってみて、私は土地や道路のことをメインに考えていたけど、〇さんの話を聞いて、盛岡の歴史や文化を大切にしていくことで盛岡の魅力も伝わるんじゃないかなと考えました。
- ・私は「古い建物を残しつつ、新しい技術をどんどん進化させていく盛岡」がいいと思っていたけど、阿部さんに「古いものって何？」「なんでもいいの？」と聞かれ、よく考えました。建物だけでなく、行事も受け継いでいくことが大切だと思いました。私は、阿部さんの勤めている市役所で、なんでもできると思っていたのですが、私にもできることがあるとわかり、盛岡のいいところをみんなに教えていきたいです。

4 成果と課題

- 指導要領解説を読み、3年生新単元の開発を行うことができた。目標や資質・能力、問いの例まで詳しく明記されているので、じっくり読むことで単元・授業イメージを持つことができた。
- 児童が主体的に問題解決を図ることができるよう、単元のデザインや提示資料を吟味することができた。
- 単元を通して、友だちや市役所の方との対話を重視することで、考えの深まりを実感させることができた。
- 市への提案に向け、行政との打ち合わせを重ねることで、学校側も行政側もこれからの3年社会本単元（おそらく3月実施）の見通しや方向性を探ることができた。
- 社会的事象の「見方・考え方」を働かせるためには、資料の吟味、加工、提示方法、そして、切り返しの発問がカギになることが分かった。
- △本実施時の時数に合わせて単元計画を見直す必要がある。
- △どの資料をどのように加工して示すことが、3年生にとって有効なのか、検討し直す必要がある。そして、副読本編集に生かすことが大切であると考える。

第3学年社会科学習指導案

日 時 平成29年12月1日(金)

児 童 3年つつじ組31名(男子17女子14)

指導者 橋 場 美 和

1 単元名 盛岡市の様子のうつりかわり

2 単元について

(1) 本単元の内容

本単元は、新学習指導要領の第3学年の内容(4)「市の様子の移り変わり」に基づき設定した新単元である。この内容は、

ア 知識及び技能
(ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。
(イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
イ 思考力、判断力、表現力等
(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の様子をとらえ、それらの変化を考え表現すること。

を受けて設定したものである。

本単元は、「歴史と人々の生活」に区分される3年生唯一の単元である。市の様子の移り変わりをとらえることで、地域の社会生活を総合的に理解するとともに、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うようにしていく。

(2) 学習材について

子どもたちの住む盛岡市は、人口約30万人で北東北の中核都市として機能している。約400年前、南部信直公が三戸から城を移し、城下町が形成されたのがまちづくりの始まりである。戦後、岩手県の県庁所在地として産業を発展させてきたが、平成4年、旧都南村と、平成18年、旧玉山村と合併して現在の市を形成している。交通面に関しては、昭和57年に東北新幹線開通で北東北の拠点となり、市の発展の契機となった。

時代区分では、江戸時代の築城と城下町形成、明治時代の公共施設の建築、そして、戦後から現在に至るまでのまちづくりや文明の発達など、各時代で特色がある。大正期に建てられた岩手県公会堂は、人々が集う施設として市の中心的な役割を担い、現在も保存、活用されているなど、具体的な資料を用いて変化をとらえ、時代の流れを年表などにまとめることで、子供たちに時期や時代の変化をとらえやすくできる教材であると考えられる。

一方、将来に向けて盛岡市は「盛岡市総合計画の策定方針」において、「ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡」を将来像に掲げている。盛岡市の地域特性や資源を最大限に生かすとともに、市民と行政が協働・連携し各種の政策課題を解決するための方策を探りながら、これからの時代にふさわしいまちづくりを進めている。

そこで、盛岡市や人々の生活が変化してきた延長にある「将来」について関心をもち、学んだことや計画を進めている盛岡市役所の方の話聞きながら、3年生なりの市民として将来について考えたり討論したりすることのできる教材であると考えられる。

(3) 児童の実態と指導観

本学級の児童は、見学や具体的な資料を用いた調査を好み、意欲的に社会科の学習に取り組んでいる。問いを見つけて解決していく問題解決的な社会科学習の流れにも慣れ、資料からわかることを自分なりにまとめたり、学習したことをもとに自分の言葉でまとめたりすることもできてきた。

子供たちはこれまで、「学校のまわり」「盛岡市の様子」の単元において、神社などの古くから残る建造物や公共施設を見学している。特に、盛岡市内丸地区の様子の学習では、市役所の様子や役割について調べ、公共施設の役割についてとらえてきた。また、盛岡駅の周りの様子の学習では、盛岡駅を中心とする交通の様子や土地の使われ方について調べ、地域の特色を考えてきた。

しかし、時間の変化に着目して、地域や地域の人々の様子が時間の経過に伴い移り変わってきたことについては意識できていない。また、資料から必要な情報を的確に取り出すことや、事実を比較・関連付けして考えたりする力は、十分に育っていない。

上記の児童の実態を考慮しながら、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目した資料の読み取りや意味の理解を深める手立てを組んでいきたい。

3 指導計画

(1) 単元目標

交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの時期による違いに着目して，聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして，年表などにまとめ，市や人々の生活の様子をとらえ，それらの変化を考え，表現することを通して，市や人々の生活の様子は時間の経過に伴い，移り変わってきたことを理解できるようにする。

(2) 単元を通して育む資質・能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市や盛岡市の人々の生活の様子は，時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解すること。 聞き取り調査をしたり，地図などの資料で調べたりして，年表などにまとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの時期の戸貝に着目して，市や人々の生活の様子をとらえ，それらの変化を考え表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市の移り変わりや盛岡市における人々の生活の変化をもとに，これからの盛岡市の発展について，自分なりの考えを持つことができる。

4. 単元の指導計画 (全7時間)

※評価について 知識・技能：【知】 思考力・判断力・表現力等：【思】 学びに向かう力・人間性等：【主体的な態度】として【態】

	内容 (めあて)	学習活動	評価
つかむ	①単元の学習問題を設定し，解決の見通しを立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 古地図と現在の地図を比較する。 変化に着目して，学習問題を設定する。 調べる観点を確認し学習の見通しを立てる。 	ノートの記述から「盛岡市や盛岡市の人々の生活の様子の変化に関心をもち，主体的に問題解決を図ろうとしているか」【態】「盛岡市や人々の生活の様子の変化に問いを見いだし，予想や計画を立てることができたか」を評価する。【思】
	盛岡市や盛岡市の人々の生活のようすは，どのように変わってきたのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市役所の方のメッセージから，市の将来について関心をもつ。 	
とらえる	②交通や公共施設の移り変わり	<ul style="list-style-type: none"> 東京までの移動時間の変化から，交通の変化をとらえる。 (新幹線開通，高速道路) 岩手県公会堂，県民会館，市民文化ホール(マリオス)の比較から，公共施設の移り変わりをとらえる。 	ノートの記述から「盛岡市の交通や公共施設の変化を資料から読み取りとらえているか」を評価する。【知】
	③人口や土地利用の移り変わり (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市の人口の変化から問題意識をもつ。 年表から人口の増加の原因をとらえる。 市町村合併による面積の変化と，土地利用の変化をとらえる。 	ノートの記述から「盛岡市の人口や土地利用の変化を資料から読み取りとらえているか」を評価する。【知】
	④生活の道具などの時期による違い	<ul style="list-style-type: none"> かごと自動車の比較から問題意識をもつ。 明かりをつける道具や電話，釜などから生活の道具の変化をとらえる。 	ノートの記述から「盛岡市の人々の生活の道具の変化を資料から読み取りとらえているか」を評価する。【知】
	⑤盛岡市や盛岡市の人々の生活の移り変わりをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> 時期や時間の経過に沿って市や人々の生活の様子を年表にまとめる。 交通の発達と公共施設，土地利用の変化と道具の変化など，相互に関連づけたり結びつけたりして，市や人々の生活の変化を文章で捉え直す。 	年表やノートの記述から「盛岡市や人々の生活の様子の変化を相互に関連づけたり，市の変化と人々の生活の様子の変かを結びつけたりして考えているか」を評価する。【思】
ひろげる	⑥⑦盛岡市の未来について考え討論する。	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市総合計画から，盛岡市がめざすまちづくりについて知る。 自分の重点宣言を考える。 市の将来について討論する。 市役所の人から，盛岡市の目指すまちづ 	討論の様子やノートの記述から「これからの盛岡市の発展について，自分なりの考えを持つことができたか」を評価する。【態】

	くりについての話を聞く。	
--	--------------	--

5 本時の指導 (3/7時間)

(1) 目標

グラフや写真資料、年表の読み取りを通して、盛岡市の人口は、都南村や玉山村の合併で大きく増加したが、最近人口が減ってきていることを理解している。(知識・技能)

(2) 構想

導入においては、盛岡市の人口の変化を表すグラフから、人口が大きく変化しているところに着目させ、問題意識をもたせたい。グラフを用いた資料の読み取りについては、算数において棒グラフも折れ線グラフも未習であるが、横軸が時間の変化、縦軸が人口(住んでいる人の数)表している事柄を丁寧に確認しながら示していきたい。時期や時間の経過をもとに人口の変化に着目し問いをもつことは、社会的事象の見方・考え方を働かせて問いを生み出す場面と考えられるので、資料の提示の仕方を工夫していきたい。

問題の追究の場面では、副読本の年表から関係のありそうな事柄を探したり、提示した地図から盛岡市に組み入れられた事実を確かめたりしていく。そこでは、盛岡市の範囲の広がりや人口の増加が関係していることもとらえさせたい。

本時は、単元の中で人口や土地利用の変化に着目した盛岡市の移り変わりをとらえる時間である。よって、人口や土地利用を中心とした盛岡市の様子や人々の生活の様子の変化について、資料を用いて調べることに重きを置いていきたい。しかし、合併による人口増加については、どんなねらいで合併が進められたのか、合併することでどんな良さがあつたのかという本質的な部分についても、予想したり、市役所の人の話から調べたりする中で、3年生なりにとらえさせていきたい。このことで、市の移り変わりを人々の生活と関連させ、将来の盛岡市について自分の考えたことを選択・判断できる材料としていくことにつながると考える。知識・技能の評価場面ではあるが、単元全体の流れの中でどのような考えを膨らませていきたいか考えると、合併の内容についても触れていきたい。

汎用的スキル(本校で定義した「批判的思考」「創造的思考」「共感的思考」)については、予想を吟味する場面や合併によって、空間的な広がりや人口の増加が関係していることをとらえる場面で活用されると考える。社会的事象の見方・考え方を働かせるための資料提示や発問の工夫を行い、関連づけたり結びつけたりする深い学びを目指していきたい。

(5) 評価

評価の観点	評価方法と評価規準	努力を要する児童の手立て
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 発言やノートの記述から、「盛岡市の人口は、都南村や玉山村の合併で増加したが、最近人口が減ってきていることを理解している」かを評価する。 発言やノートの記述から「グラフや写真資料、年表を用いて、盛岡市の人口の移り変わりについて、特徴をとらえて調べているか」を評価する。 	ノートへのまとめかたを個別に指導する。また、板書を振り返らせたり、資料から分かることを確認させたりする。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点・評価	資料等
問題の把握	1 盛岡市の人口の移り変わりを表す資料から問題意識を高め、学習問題を設定する。 (5分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 盛岡市の人口はどうして急にふえたのだろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 縦軸が人口(住んでいる人の数)であることを確認し、資料からどのようなことがわかるかをとらえさせたい。 大きく変化しているところに着目し、問題意識を高めさせたい。 	盛岡市の人口の移り変わり(グラフ)

<p>問題の追究</p>	<p>2 予想を立て、解決の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの市と一緒にになった。 ・引っ越してきた人が増えた。 ・たくさん人が生まれた。 </div> <p>3 人口の変化の原因について調べる。</p> <p>(1) 年表から調べる。</p> <p>(2) 旧都南村と旧玉山村の合併について、地図や写真資料を用いて調べる。</p> <p>4 市役所の人の話から、人口の変化の原因や市町村合併の理由についてとらえ、人口と土地の拡大が関係していることについて考える。</p> <p style="text-align: right;">(30分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をしながら子供たちの考えを把握し、意図的な指名など、以後の活動に生かしていく。 ・どんな資料があれば調べられそうか、解決の見通しを持たせたい。 ・副読本巻末の年表を用いて、人口の増える原因になりそうな事柄を見つける。 ・市町村の合併について、辞書や文書資料を用いて意味を確かめさせたい。 ・現在の盛岡市の地図と、旧盛岡市の地図を比較し、どの部分が合併した部分なのかをとらえさせたい。 ・合併するとなぜ人口が増えるのか、土地の広さと人口の増加がどのように関係しているのか、説明できるようにさせたい。 ・写真から、土地の様子や使われ方にも変化があるのか問いを持たせたい。 ・人口の増加には、土地の拡大が関係していることを考えさせたい。 ・合併することの効果や難しさなど、子どもたちなりに考えさせたい。 ・導入のグラフの続きを提示することで、現在人口が減少していることに新たな問題意識を持たせたい。 ・市役所の人の話をまとめた文章資料から、人口の変化や合併の理由について検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡市の移り変わり (副読本年表) ・旧盛岡市 旧都南村 旧玉山村 (地図) ・合併調印式 (写真) ・市役所の人の話 (文章)
<p>まとめ</p>	<p>5 学びを振り返る。 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題のまとめは、板書やノートを基に自分で記入できるようにさせたい。 ・振り返りは、市の変化や人々の生活について考えられるようにしたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・発言やノートの記述から、「盛岡市の人口は、都南村や玉山村の合併で増加したが、最近では人口が減ってきていることを理解しているか」を評価する。 ・発言やノートの記述から「グラフや写真資料、年表を用いて、盛岡市の人口の移り変わりについて、特徴をとらえて調べているか」を評価する。 <p style="text-align: right;">【知識・技能】</p> </div>	

実際の授業の板書

